



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

—あいなん音故地新— 推しは推せるときに推せ

先日、あるアーティストのコンサートに行ってきた。私が小学生の頃から大好きなバンドで初めて聴いたとき、なにこの曲!!なにこの歌!!と電流が走ったのを覚える。実際に歌ってる姿が見たい!と思っても大人気でチケットが手に入らん。先輩から余ったチケットを譲ってもらって初めてのコンサートに行くことができたのは高校を卒業してからやった。10年近く憧れとった人が目の前で歌う。ホール中に響く歌声と歓声。細胞という細胞が震えた。その後もチケットが買えなかったり、私の中で熱が落ち着いたりで、5年ほど前から時間を取り戻すかのようにコンサートに行くようになった。昔の曲もやってくれるけど、当然好きやった曲を全部歌ってくれるわけじゃない。聴きたい曲は山ほどある。なんであの時コンサートに行っとかんかったんや…もっと思っとならばよかつたって…思う。

推しは推せるとき推せ。誰が考えた言葉か知らんけど、本当にそうや。永遠はない。歌なんて、声なんてそのままずっと変わらずってことは絶対ないからね。応援しとるアーティストがおるなら、直接触れる機会があるなら、少し無理してでも行ってほしい。今の声と歌を聴けるのは今しかないよ。もう一回言うとか。推しは推せるときに推せ!!

(テノヒラkiku)



本日!海日和!! vol.155

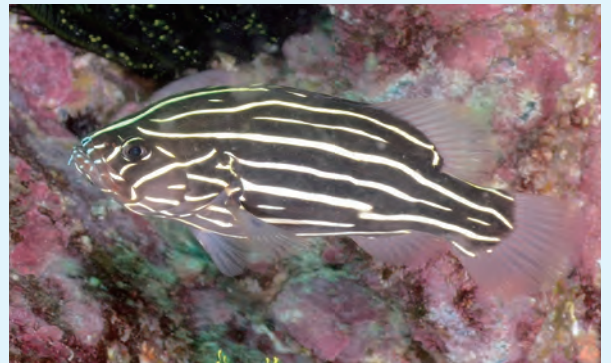


「サラシを巻いて」

10月になると、あちらこちらに幟が立ち、祭囃子にお神輿と秋真っ盛りだ。神輿の担ぎ手は、法被にサラシだが、最近ではサラシを巻くことも少なくなってきたようだ。

このサラシを体に巻いているように見える魚がいる。その名もヌノサラシ。なんだか妖怪のような名前だ。成長すると体長が30cmを超えるが、大きくなるにつれて縞は切れ切れになってしまう。布をさらしているように見えるのは、幼魚の時だけだ。名前の由来は諸説あるようだが、白い縦縞が、布をさらしているように見えるという説がピッタリだと思う。

いつも岩陰に隠れているが、危険が迫ると、体表から毒のある粘液を多量に放出する。その粘液で周



【ヌノサラシの幼魚】

りが白く濁り、石鹼を泡立てたように見えるので、英語ではソープ・フィッシュ(石鹼の魚)と呼ばれている。

魚の名前は、国や地域によって異なるのでおもしろい。何はともあれ、毒を持った魚なので、釣れた時には、すぐに逃がした方がよさそうである。

(撮影地:鹿島)

愛南サンゴを守る会 ともてる 西尾知照